

〈社会科〉 5年

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・全体の正答率は、目標値を上回っており、学習内容は定着しているといえる。
- ・全体的な傾向は、学校生活の様々な場面で、身近な社会的事象に目を向けさせていく必要もある。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・地図記号や等高線等の知識をもとに複数の条件を組み合わせて問題を解決することに課題がある。
- ・複数の資料を組み合わせて、課題解決を図ることに課題がある。
- ・地図や地形図、県の様子などを正しく読むための知識が、十分身につけていない部分がある。
- ・学習した内容は理解できているが、知識を結びつけて考える力をつけていく必要がある。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・複数の資料を読み取り、関連付けることで問題を解決することに課題がある。
- ・資料から読み取ったことを根拠として、自分の考えを表現することに課題がある。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・学習問題の解決に向けた主体的な追究をすることに課題がある。
- ・資料を関連付けたり、自己の考えを表現したりすることに抵抗感があり、問題に取り組めない児童がいる。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・地図記号や方位について年間を通じて継続的に指導を行う。
- ・社会科の授業だけでなく、他の教科の指導と関連付けながら、資料の読み取り方を身につけ、情報を整理する力を高める。
- ・学習内容と関連付けて、地図帳の見方や資料の活用方法について定着を図る。
- ・学習内容と関連する地名について、地図帳を活用して調べさせる機会を増やす。
- ・社会科の基礎となる用語を使い、各自で授業のまとめを書くことで理解を深めさせる。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・問題解決的な学習を中心とした授業展開を行い、社会的事象に対する自分なりの考えをもたせる。
- ・自分たちの生活(身近な事象)や複数の資料と比較・関連させながら考えさせる場面をつくる。
- ・調べ学習で分かったことを事実と考えを関連付けて、新聞やパンフレットにまとめる表現活動を継続的に行う。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・視聴覚教材を活用して学習内容に関する具体的な理解を図り、課題に対する関心を高める。
- ・身近な社会的事象に関する資料を、ねらいを明確にして提示することで、児童が比較・関連を通し、自ら課題意識をもって取り組めるようにする。